

平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成16年7月28日

上場会社名 **日本精線株式会社**

（コード番号：5659 東証・大証第1部）

（URL <http://www.n-seisen.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 浅香 文昭
責任者役職・氏名 取締役経営管理部長 岸木 雅彦

TEL：(06) 6222 - 5432

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

（内容）財務諸表等の作成に際しては、中間連結財務諸表規則に準拠していますが、一部簡便な方法を採用しています。その重要なものについては、添付資料に記載しています。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

記載金額の表示方法 : 百万円未満切捨て

2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	四半期（当期）純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
17年3月期第1四半期	5,648 16.1	499 -	493 -	290 -
16年3月期第1四半期	4,864 -	- -	- -	- -
（参考）16年3月期	19,876	1,133	1,079	618

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	10.39	-
16年3月期第1四半期	-	-
（参考）16年3月期	21.45	-

（注）売上高以外の四半期経営成績の開示は当四半期から行っているため、前年同四半期については記載していません。売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しています。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の売上高は、主力のステンレス鋼線が製品値上後も堅調に推移し、加えて金属繊維関連で半導体・液晶業界向けの超精密ガスフィルター（ナスクリン）が当該業界の好調に支えられ、大幅な伸長となったことなどにより、56億48百万円（前年同四半期比16.1%増）となりました。

損益につきましては、超精密ガスフィルター（ナスクリン）などの高付加価値製品の売上増をはじめとする採算性の改善、加えて生産性向上によるコストダウン効果などもあり、経常利益で4億93百万円、四半期純利益で2億90百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	22,791	11,047	48.5	394.56
16年3月期第1四半期	-	-	-	-
（参考）16年3月期	22,552	10,877	48.2	388.44

（注）当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載していません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期末は前連結会計年度末に比較し、総資産で 2 億 38 百万円の増加となりました。これは、主に減価償却による有形固定資産の減少 1 億 52 百万円、現金及び預金の減少 1 億 68 百万円などがあつたものの、一方で売上高増による受取手形及び売掛金が 5 億 76 百万円増加したものなどによります。

[参 考]

平成 1 7 年 3 月期の連結業績予想（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日）

		売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり予想 当期純利益
		百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	前回発表予想 (A)	10,200	590	330	
	今回修正予想 (B)	10,800	900	500	
	増減額 (B - A)	600	310	170	
	増減率 (%)	5.9	52.5	51.5	
通期	前回発表予想 (A)	20,400	1,180	660	23.57
	今回修正予想 (B)	21,000	1,490	830	29.64
	増減額 (B - A)	600	310	170	-
	増減率 (%)	2.9	26.3	25.8	-

平成 1 7 年 3 月期の個別業績予想（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日）

		売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり予想 当期純利益
		百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	前回発表予想 (A)	9,600	530	290	
	今回修正予想 (B)	10,000	850	460	
	増減額 (B - A)	400	320	170	
	増減率 (%)	4.2	60.4	58.6	
通期	前回発表予想 (A)	19,200	1,060	580	20.71
	今回修正予想 (B)	19,600	1,380	750	26.79
	増減額 (B - A)	400	320	170	-
	増減率 (%)	2.1	30.2	29.3	-

[業績予想に関する定性的情報等]

当第 1 四半期の業績を踏まえ、平成 16 年 5 月 14 日に公表した平成 1 7 年 3 月期（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日）の業績予想（連結・個別）を上記のとおり修正いたします。

当中間期は、主力のステンレス鋼線が製品値上後も堅調な推移が見込まれること、また高付加価値製品の超精密ガスフィルター（ナスクリーン）が当該業界の好調に支えられ、引続き需要の増加が期待できることなどにより採算性が改善し、加えて生産性向上によるコストダウン効果などもあり、経常利益、中間純利益とも前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。

また、通期の業績予想は当中間期の大幅な業績修正にともなう行つたものであり、下半期については先行きに不透明感があるため、前回予想を修正していません。

なお、上記予想は現時点で得られた情報に基づき算定していますが、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき下さい。

〔添付資料〕

1. 要約四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成17年3月期 第1四半期末)	前年同四半期 (平成16年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 平成16年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
現金及び預金	1,409	-	-	-	1,578
受取手形及び売掛金	6,934	-	-	-	6,357
たな卸資産	3,342	-	-	-	3,276
そ の 他	325	-	-	-	391
〔流動資産合計〕	12,012	-	-	-	11,603
固定資産					
有形固定資産	8,448	-	-	-	8,601
建物及び構築物	2,939	-	-	-	3,030
機械装置及び運搬具	3,445	-	-	-	3,569
土 地	1,850	-	-	-	1,857
そ の 他	213	-	-	-	142
無形固定資産	45	-	-	-	47
投資その他の資産	2,284	-	-	-	2,300
〔固定資産合計〕	10,778	-	-	-	10,949
資産合計	22,791	-	-	-	22,552
(負債の部)					
流動負債					
支払手形及び買掛金	4,171	-	-	-	3,951
短期借入金	2,239	-	-	-	2,744
そ の 他	1,227	-	-	-	1,396
〔流動負債合計〕	7,639	-	-	-	8,092
固定負債					
長期借入金	943	-	-	-	539
退職給付引当金	3,017	-	-	-	2,908
そ の 他	104	-	-	-	96
〔固定負債合計〕	4,066	-	-	-	3,544
《負債合計》	11,705	-	-	-	11,637
(少数株主持分)					
少数株主持分	37	-	-	-	38
(資本の部)					
《資本合計》	11,047	-	-	-	10,877
負債、少数株主 持分及び資本合計	22,791	-	-	-	22,552

(注) 当四半期より要約四半期連結貸借対照表の開示を行っているため、前年同四半期については記載していません。

2. 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成17年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成16年3月期 第1四半期)	増 減		(参考) 平成16年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	5,648	4,864	783	16.1	19,876
売上原価	4,455	-	-	-	16,013
《売上総利益》	1,193	-	-	-	3,863
販売費及び一般管理費	693	-	-	-	2,729
《営業利益》	499	-	-	-	1,133
営業外収益	11	-	-	-	39
受取利息及び配当金	7	-	-	-	10
その他収益	3	-	-	-	28
営業外費用	17	-	-	-	93
支払利息	9	-	-	-	53
その他費用	7	-	-	-	39
《経常利益》	493	-	-	-	1,079
特別利益	-	-	-	-	37
特別損失	-	-	-	-	89
《税金等調整前四半期 (当期)純利益》	493	-	-	-	1,027
税金費用	202	-	-	-	402
少数株主利益	0	-	-	-	6
《四半期(当期)純利益》	290	-	-	-	618

(注) 要約四半期連結損益計算書の売上高以外は当四半期から開示を行っているため、前年同四半期については記載していません。

3. 会計処理の方法における簡便な方法の採用について

会計処理で簡便な方法を使った主なものは次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	年度見込額のうち当四半期分を計上
税金費用の計算	個別財務諸表上の税引前当期純利益に法定実効税率を乗じて算出
負債性引当金の計上方法	中間期または年間の繰入見込額のうち当四半期分を計上